

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 利用者：90歳代 男性 要介護2

利用期間：令和2年 2月～長期入所を利用

病 名：総胆管結石・急性胆管炎

既往歴：心房細動・認知症・慢性心不全・前立腺癌・高血圧症

経 過：

令和2年2月初旬、しおさい入所中に総胆管結石、急性胆管炎にて入院加療後、同年2月にしおさいへ再入所となる。その後、施設での生活を送っていたが、令和4年7月から食欲・意欲も低下し、臥床傾向になっていたが、敬老会の日に輝きの一日を取り戻した症例

内 容

令和2年2月下旬、総胆管結石・急性胆管炎発症。積極的な治療はせず、しおさいに再入所後、もともとご夫婦でご入所されており、夫婦仲良く生活されていました。

ご本人は令和4年7月にお誕生日を迎えた頃より、「もう歳だからお迎えが来る。だから何もしたくない」と意欲・食欲低下が著しく、就床されている時間が多くなっていきました。食事も摂れなくなり、一日何も食べずに水分のみの日も見られました。栄養状態も悪化していく中で、ご家族や他部門と何度も話し合い、ご本人がご本人らしく残された時間を過ごして欲しいとのことで、自然な形で過ごしていくこととなりました。ご本人は日々の中で「もう何もしたくない、お迎えが来て欲しい」と悲観的な日もあれば、やり場のないご自分の身体に苛立つ日など様々でした。笑顔も日に日に少なくなり、以前のやる気に満ち溢れた姿は見られなくなりました。そんなある日、敬老会の前夜に会場準備をしていると、夜勤の看護師に「ああ、太鼓叩きたいなあ。昔はお師匠さんなんていわれるくらいだったんだよ。今までもそう思ったことあったけど、口に出さなかったんだ。無理だと思うしな。」とおっしゃいました。そこで、まずは太鼓を倉庫から出してきてみると、表情が一気に変わり、「おー、これだよ、やりたいなあ。女房にも見せたい。もう最後になるだろうからなあ」と話されたため、なんとか一晩で実現出来ないものかと、ご本人のおっしゃる祭囃子のことをご家族に伺いました。しかしご家族は地域のお祭りはわからないとおっしゃり、次にしおさいのご本人と同じ地域の職員に連絡し、調べてもらいました。夜間はどうなるかわからないままでしたが、当日になり、町内会の方たちが音源のカセットテープ・ラジカセを貸して下さり、更には本番直前に地元

の法被を事務職員が届けてくれました。法被に袖を通したご本人は、とても喜び、最高の笑顔でした。本番は緊張した面持ちでしたが、何十年ぶりに祭囃子を披露され、ご利用者・職員から盛大な拍手を貰い、「ありがとうございます。100歳まで頑張ります」と久しぶりに数カ月ぶりに前向きなご様子を見ることが出来ました。娘様はその映像をご覧になって涙を流されて、「本当に嬉しい。ありがとう。」と喜ばれていました。

ご利用者の残された大切な時間の中で、普段の何気ない会話から、ご利用者の願いを聞き逃さず、しおさいだけではなく、地域と一丸となって、ご本人の思いに寄り添ったことで、ご利用者に輝きの一日を提供出来ました。この日を機に、「ケーキを食べたいな」「麺なら毎日でも食べたい」などのお言葉が聞けるようになり、食欲も少しずつ取り戻されました。今の願いは「もう一度家を見に行きたい」という願いです。この願いを実現できるよう、寄り添い続けたいと思います。